

## ■文章に必要な6つの要素

- 1) テーマ (主題)  
何について書くか
- 2) ロジック (切り口、理屈・論理)  
主題をどういうリクツで展開するか
- 3) プロット (筋書き)  
テーマと理屈をどういうふう具体的に文章に仕立てるか。
- 4) スタイル (文体)
- 5) ギミック (冗談、しゃれ、ギャグ)  
読者はズッコケさせ、ハッとさせ、ギクリとさせる仕掛け。
- 6) エピソード  
手法例、何かになぞらえて意見を述べる

文章を書く前に、まずこの六つの要素を、できたらすべてチェックする。全部は無理でも少なくとも三つ四つは、はっきりさせてから書き出すほうがいい。自分がなにをいいたいのか、どういうふうにいいたいのか。このテーマとロジックだけでも口に出していえるぐらいにしておかないと、あとから苦勞します。

## ■必要ならウソもついてください、作り話もしてください

[ウソ]

コラムやエッセイにはウソを書いてもいいんですか？ という質問をなさる方がいます。これへの答えは、「自分が書きたいことを書くのではなくて、人が読みたいことを書く」というモットーにつけていますが、あえて申しませう。もちろん、そんなことはあなたの自由です。必要ならウソもついてください、作り話もしてください。読者からすれば、つまらない本当の話より、面白いウソ話を読むほうがずっとしあわせです。

そういうと、「でも、私は本当のことしか書けません」と、胸を張っておっしゃる方がありますが……。そもそも、本当のことってなんですか？ たとえば私は、自分で「顔がいい」と思っております (笑)。同じく私は、自分のことを、「引っ込み思案と口下手のせいで、損ばかりしている人間だ」とも感じている。私にとってはどちらも「本当のこと」ですが、周囲の人間は、きっと「本当のことではない」と断言するでしょう。

このように、人間は、「私」についてさえなにが本当かを知りません。ましてその「私」が見ただけのこと、聞いただけのことを、どうして本当のことといえるのか……。こうなると哲学の領域の話ですが、このテーマは文学・ジャーナリズムの世界でもすでにさんざん議論されています。「ファクト (事実) とはなにか」「ノンフィクションとはなにか」といった一連の評論をご覧ください。

本当だと思ってウソを書く自由があるのですから、ウソだと思ってウソを書く自由もあります。ただ、「私は大金持ちだ」というウソを書けば、人がたかりにきますし、「私には盗癖がある」というウソを書けば、人が寄りつかなくなる。それだけです。

## ■お約束

山口 将棋の観戦記なんて、この論理性プラス文学趣味だからね。「飛車の交換から6三銀と受けたところで、挑戦者は二度目の長考へ。対局場の外、松の木の上空を秋の風がふきわたる。どこかで百舌(もず)が一声鳴いた」とかね。まあお約束だけど、うまいよねえ (笑)。  
関川 問題なのは、そういううまさがある人間が、いまはたしてどのくらいいるかだよ。まわりを見れば、ころもとなくなる状況ばかりだ。文章の切れ味を求めてひたすら一剣を磨くみたいなタイプの書き手は、いっそう孤独感がつのるだろう。